

【アイデア部門】

入選 三谷 まりん

視覚障害者マーク

視覚障害者の外部講師の方の授業で、会社では視覚障害であることが認知されているにも関わらず、実際の業務では顧客に対し視覚障害であることを伏せて介護業務にあたらなければならない苦勞されたという話を伺い、そのお話からマタニティマークのような世間一般的に浸透した、周囲の人が一目みてそのマークの方がどのような障害があるのかがわかるアイテムがあればいいなと感じました。

白杖や盲導犬、カラーレンズのメガネを装用している方のように外見ですぐに判断できるような方ばかりではない視覚障害の方、それらを用いない方、外出時にそういった目立つものを使用することに抵抗がある方でも安心して働き、過ごすことができる環境を周りの方と一緒に整えていけるきっかけになるのではないかと考えます。具体的には、働く際には腕章のようにどこからでも見ることができる位置に装着し、安全面の配慮などをおこなうことができます。日常的には鞆につけるなどして、周囲の人にのみ公開できるようにして、気づいた人が電車の座席などのケアができるようなものがあればいいなと思いました。

審査員コメント

障害者の方が、初対面の方にいちいち自分に障害があることを説明しづらいですね。万国共通のマークがあれば、お互いが理解しやすいように思います。

三谷 まりん

大阪医療福祉専門学校 視能訓練士学科一年制学生